グリーン交悠録

「10～30年先を見る経営者が成功する」とは小林一三氏の言

日本経営合理化協会 会長 **牟田 學**さん

ザ・リビエラカントリークラブ

セミナーは第一回からパレスホテルで

大中 確か、創業が私共と一緒ですよね。

牟田 そうですね。正確には56年目で、法人化して51年目です。

大中 私共も、創業当時はクライアントと言えば、中小企業ばかりでしたが、現在はほとんどが大企業です。しかし、日本の全企業数の実に99・5％は中小企業です。世界的ブランドを誇る巨大メーカーも、所詮は中小企業から供給される部品を組み立てて売っているだけですよ。

牟田 仰るとおりです。

大中 そして、あなたが彼らを鍛え、育てた結果、しっかりと大地に根を張ることができ、コストカッターにも耐え、人件費も削減し、一所懸命頑張って経営拡大を果たしているのです。

牟田 当時、彼らは本当に弱かったですからねえ。

大中 しかし、我々のような応援団がいるわけですから、素晴らしい技術を持った人間を大きく育てましょう。

牟田 そうですね。私も旗揚げ当初は本当によく叩かれました。

大中 この仕事に入るきっかけは何でしたか。

牟田 中小企業の置かれている状況を見るに見かねたからです。ほんの1年程ですが、同種の組織に籍を置いていたことはありましたが、経験を積んだという程のものではありません。私は明治大学出身ですが、経営学部部長が日本経済史の第一人者の、土屋喬雄先生だったんです。それで土屋先生のゼミに5年ほど在籍していました。入学後、化学学科からすぐに経営学科に転部した際に「俺のところに来ないか」と誘ってくれたのが土屋先生だったのです。

大中 土屋氏も、当時から中小企業の経営者を集めて勉強会を開いていたんですか。

牟田 いや、東大の名誉教授でした。そして、先生には恩がありましたので、卒業後も少し大学に残って講師をして、その流れで玉川大学でも教鞭をとるようになったんです。創設者の小原國芳さんに気に入られて、何度もお誘いを受けていましたが、その後、息子さんの代になって玉川大学に行きました。

大中 日本経営合理化協会の設立は正式には何年ですか。

牟田 設立準備は1961（昭和36）年で、その時からセミナーを開催していました。

大中 当初、受講者は何人位でしたか。

牟田 第一回目から、250～300名程集まりました。

大中 それは凄いですね。やはり牟田さんのカリキュラムがよかったんでしょうね。

牟田 講師陣が素晴らしかったんでしょう。でも周囲の人達は、「果たしてこんなに来てくれるのか」と疑問に思っていたようです。

大中 私も心配しますよ。初めから自信があったんですか。

牟田 ありました。むしろそれ程の受講者が入り切れるか、会場の方が心配でした。

大中 まさか、最初からパレスホテル、ということはないでしょうね。

牟田 いえ、最初からパレスです。実はパレスの前身、ホテル帝都のオーナーだった吉原さんとのご縁がありまして。何かの会合の講師として、企業経営者について話をした後の懇親会で、「佐賀出身ですか」と声をかけられ、「いい話をするねえ」と褒めていただいたんです。

大中　そうですか。それでその時の講演の具体的な中身は何ですか。

牟田　阪急電鉄グループを築いた、日本を代表する経営者の小林一三氏が、常に「100年先を見る経営者は失敗する、だからと言って直近でも駄目、10～30年先を見る人が成功する」と言う話を、小林さんの愛弟子から聞いたという話を披露したんです。

大中　しかし、当時は演壇に立つことに自信満々、というわけではなかったのでは。

牟田　そうですね。

大中　初めの頃の講演会のペースは年1回という感じですか。

牟田　いえいえ、季節ごとに年4回こなしました。

封印したゴルフ再開にも自信あり

大中　ところで、これまで牟田さんは長年にわたってゴルフを絶っておられましたが、ついに再開すると宣言しましたね。ゴルフとの出会いをお聞かせ下さい。

牟田　長太郎カントリークラブのオーナー、滝口長太郎さんが私の生徒で、ゴルフ場を造るので二代目の理事長になってほしい、と頼まれたのがきっかけです。そして、長太郎の創業者とよみうりカントリークラブでたまたまゴルフをしたんです。

大中　コースに出るまでのプロセスは。

牟田　妻の妹婿の亀岡季知氏から、クラブを貰ったのがきっかけです。彼は当時、アルプス電気の米国子会社の社長で、私が渡米した際「兄貴、ゴルフって凄くおもしろいよ、やってごらんよ」と言いながら、愛用のクラブを何本か持たせ、そのままゴルフ場に直行したんです。30代の頃の話です。

大中　練習もせずにですか。

牟田　そうです。普通なら、なかなかメンバーになれない西海岸のゴルフ場です。

大中　当時、日本人がメンバーになることは出来ませんからねえ。特にザ・リビエラカントリークラブなどは（笑）。

牟田　そうです。非常に名門でしたので、多分リビエラだったと思います。

大中　当然、その頃は米国のゴルフ場は面白い、などと言う意識はありませんよね。

牟田　もちろんです。その時は主に3番、5番の各アイアンと、ウエッジ、パターくらいでしたでしょうか。そして、これはいいな、と思ったのは、1回だけハーフ50を切ったんです。

大中　へえ、驚きですねえ。

牟田　しかも、ほとんどが50少しで上がったんですよ。

大中　しかし、クラブを貰って、いきなりコースに行って、なかなか50は切れるものではありませんよ。

牟田　それが切ったんですよ。

大中　そこを特にお聞きしたい。なぜですか。

牟田　多分、いきなりドライバーを握っていたら、駄目だったと思います。

大中　なるほど。実は私も同じように教えています。ところで、何年でシングルになりましたか。

牟田　1年もかからなかったんじゃあないかと思いますよ。

大中　最盛期には年にどれくらいコースに出ましたか。

牟田　基本は土日、休日になりますが……。

大中　70回程ですか。

牟田　いえ、そんなには行ってません。講演も執筆もありますので。

大中　コーチはつけましたか。

牟田　通っていた近所の練習場に、よみうりの村上隆プロがコーチとしていたんです。そこでたまたま打っていたら、村上プロが私のスイングを見ていて、他の練習に来ていた人達を集め、「この方は上手になりますよ」と褒めてくれたんです。

大中　へえ、でも1年でシングルになる腕前ですから、プロが見ればわかるんですね。

牟田　お世辞だと思いますが、それを真に受けて有頂天になり、それ以降、村上プロからレッスンを受けるようになったんです（笑）。

大中　牟田さんはゴルフを封印して20年とお聞きしましたが、結局何年間プレイしていたんですか。

牟田　約25年ですか。

大中　なぜクラブを置いたんですか。

牟田　それは飛ばなくなって、苦痛に感じるようになったからです。

大中　好きな仲間とプレイしても、負けてばかりではつまらないですからね。しかし、今回ゴルフを再開したのは、喜ばしい限りです。ゴルフ程楽しいスポーツはありません。近いうちに是非お手合わせをお願いします。

牟田　こちらこそ宜しくお願いします。